

令和5年度 社会福祉法人 茜会事業報告書

理事長 高橋 泰子

令和5年度におきましては、コロナ問題が5類へと移行し、今まで続いてきた緊張感が揺るぎ、世の中が落ち着き始めているようにみえていたが、令和6年1月1日未曾有の「能登半島大地震」が発生し、被災地域によりましては、未だ解決をみることが出来ず現在に至っている。

法人茜会におきましては、あつてはならない有事に備え、準備態勢を整えてきた。現在飯塚市が中心となり、施設協議会、社会福祉協議会等も参加し、防災に関する計画について、日本は地震国として全体的なリスクを抱えているが、従来行ってきた訓練に加え新たな「地震発生」に対する防災計画立案・作成・訓練の見直し、実施を行った。

石川県の地域で発生した地震であったが、プレートの移動が自然現象で発生するものの、全てが自然現象にて変化するものであるために、予測は難しいものがある。

飯塚市防災担当等にもご指導をいただきながら、“地域共生社会づくり”をめざしている法人茜会におきましても、地域社会における“防災体制”がご利用者と共に、地域住民を安全に守り、避難誘導することが今まで以上に求められてきている。

法人地域の周辺には高齢者が多く、法人ご利用の方の避難・訓練には多様な課題があり、安全・安心な訓練方法を編み出して行かなければならない。

法人茜会の令和5年度を俯瞰してみると、大きな課題が急務となった。

1 法人茜会各事業者利用において、病院への受診者数が例年に比べ、月平均受診者数が大幅に上回った。(パート看護師 増1)

又罹患された病名も多岐にわたり、入院されるご利用者も以下の通り増加した。

ガン罹患者の発生(手術、抗がん剤治療の開始 4クール、5クール、6クール) 予防的にてんかん服薬開始)・・ご本人の希望により、抗がん剤治療後は、あかね園で過ごしたいと要望され、現在頑張っておられる。

- ・ 胆石、胆管結石摘出手術
- ・ 肺炎(3名)
- ・ てんかん(重責発作)
- ・ 誤嚥性肺炎(意識障害)、伴う食欲不振
- ・ 胆のう摘出手術
- ・ 適応障害

- ・ 認知症
- ・ 左足蜂窩織炎
- ・ 転倒事故の為、骨折(自宅に帰省中)
 - ※以前に比べ飯塚病院を始め、飯塚市・筑穂地区周辺の病院も障がい者の受け入れが良くなり、各病院の障がい者に対する理解が高まり、やさしさの中に受け入れていただいていることを有難く感じている。
 - ※令和5年度では、コロナが5類となることが明言された。
 - 同時にインフルエンザの大流行、はしか等が蔓延し、緊張が走る状況が続いた。

- 同時進行で法人事業 茜会「生活介護事業・入所支援事業」のご利用者の中で最高齢になられる Uさんが94歳で他界された。あかね園開園時よりのご利用者であった。喘息発作が高齢化と共に悪化してきたことが大きな原因となった。

日中生活における生活介護事業、入所支援事業においては、夜間急変等のリスクを抱え支援してきたが、その後成年後見人(姪御さん)、嘱託医師とも相談し、病院が併設される入院機関を医療機関よりご紹介いただき、ご利用されていた。

沢山の思い出をつくることができ、あかね園で体験されたハワイ旅行、沖縄旅行等あるいは日々の体験、交流の深さには、ごきょうだいからともうらやましがられた。大往生ができたと話していただくことができた。

- コロナ禍、ご利用者の体調の変化や高齢化による症状の進行。症状の重篤化(ガンの発生と予後、精神的な変化等)開園以来この様に入院が必要となる状況が続くことがなかったが、対応に慌ただしい日々であり、一年であった。

直接の原因は定かではないが、知的障がい以外に内臓器官等に持病を持たれている方も多く、ご利用者の高齢化の加速、運動量の低下、コロナ禍日常生活における変化・集団生活も難しい時期も増え、法人、支援管理部、栄養管理部、医務局を中心に会議を綿密に行いながら、ご利用者の安全・安心・ゆとりのある生活の確保を中心にして過ごしていただいた一年であった。

※医療面では特に様々な分野において、救急隊員、病院のご協力も数多くいただき、コロナ禍入院も、通院もままならない時期に、有難いことに積極的に、数多くの病院の受け入れ、ご協力をいただくことができた。

- コロナ禍であったが、施設長が中心となり、ご利用者と支援者が対峙してご利用者が不安にならない様、様々な工夫と取り組みをおこなった。

アートセラピー、音楽療法、学習支援、運動療法(PT 等)、高齢者・重度者対象嚥下療法(ST)強化、和太鼓演奏の展開、歩行訓練(園内における)の実施、

映画鑑賞等密集の場所を避けるために DVD 鑑賞の時間の確保、レストラン等、今までできていたことが出来なくなったために、外食をデリバリーに代え、職員が交代で楽しい雰囲気をつくりだしながら、ご利用者が楽しめる環境づくりに時間を生み出し支援提供してくれた。

パッチワーク、さおり織、バスを使った屋外活動、ダンス等を使った楽しい時間の共有、PT によるリハ体験・スポーツ体験等も数多く取り入れ、従来の活動に加えた。

職員の感染も含め、嘱託医師や近隣の医師たちの助言(予防接種)等を実施し、感染の広がりや少しの落ち着きを見ながら、講師の先生方の有難いサポートもいただきながら、ご利用者の支援にあたった一年であった。

2 職員の変化と求人活動

コロナ禍張り詰めた気持ちで就労してきてくれた職員の姿には、頭が下がる気持ちであった。又この先どのような時代が訪れるのか、いまだかつてない世の中の大きな変化に戸惑う職員もみられた。施設長が中心となり、下記の課題を積極的に取り組み、人材の確保並びに養成に力を注いだ。

現在、日本中が人材確保の問題として、保育・障がい・高齢分野において、それを担う人材数が確保できなく、混乱が始まっている。

- ① 人材関係業者、派遣会社等からの応援
- ② 求人活動の活発化(行動範囲を広げる。地域外にも募集を始める等。)
- ③ インドネシアへの求人活動

令和6年3月6日～10 日まで、施設長・サビ菅1(古道)が関係者と共に、現地に赴き、求人活動を行ってきた。

文化も日常生活、価値観、考え方を大きく違うのであるが、“弱者を支援する”にあたり、愛や慈悲のある心を持たれているインドネシアの 10 代後半から 30 代までの女性希望者が面接試験を受け、6名合格した。

顧問労務士とも相談し、当法人事業になじむことが出来る人材の育成に努めて行きたい。

- ④ 退職者からの応援等
- ⑤ 高齢者の福祉施設に対する職場体験のチャレンジ(夜勤・日勤者を雇用等)
ご利用者の高齢者、重度・最重度者の食事、入浴、外出他日常生活の介助で、担える職務を時間ごとに振り分けて、日常生活につなげていく職務の工夫。

3 職員健康診断(夜勤を伴う職員は年 2 回を実施した。)

職員健康診断 第 1 回目 令和 5 年 6 月実施 第 2 回目 令和 5 年 12 月実施

- 全職員 ストレスチェックの実施

年1回ストレスチェックを7年間実施してきた。

職員が受けたストレスチェック結果を、臨床心理士矢永 由里子先生により、診ていただき、面談され、病院受診が必要な方に対して、受診を促された。

コロナ禍に入り 3 年半の歳月が流れているが、事業所に勤務する職員に対して、心身共に健康であり、元気に就労してもらいたいと願っている。

【茜会 事務管理部】

令和5年度は25年勤務していた事務職員が定年を控え退職し、事務管理部の刷新が必要となった為に事務内容の精査を、令和5年度は試みる機会が必要となった。

令和 6 年度から国の方針として、厚生労働省から出されている制度として、障がい者施設に対して「障害報酬改定と施策の方向性」として持続可能な制度として存在していく為の方策が打ち出されていることである。

サービス量・財源が増大する一方で、財源のない現実が見え始めメリハリをどの様につけていくかが、課題である。

又もう一つは、サービスの効率化や生産性の向上を図る為に、ICT 等の活用・導入をどう促進するか？ということである。

1 中・長期的な視点をもって、今後に備える。

未来志向の戦略的な事業経営をめざしていくこと。

※人材確保と処遇改善の一本化

・人材確保と働きやすい職場づくり

・加算上位区分をめざした計画的な対応(新加算の1(最上位)を算定できる様

2 報酬改定の方向性を踏まえた準備や必要な施策

・ICT 化への早急な対応

障がい者の意思決定支援・支援が重視され経営における会計の見直しが大幅に行われる事となり、無駄を省き、事務のスリム化を始め法人の重要な部署として、今まで以上に事務管理の重要性が高まってきている。

令和 6 年 4 月に国の大幅な見直しにより詳細な改正点も明らかになるが、会計処理を含めこれから新しい事業の展開に伴い、内容の見直し・充実に向け新しい職員の採用等に時間をかけた一年であった。

ようやく法人として事務管理部は、大変大きな職務を担ってきたのであるが、漸くその存在意義と専門性を認められた。そしてこれから、技術を高め、多角化多機能化を充実させていくことが求められている。事務管理部トップを中心に、更なる今後の展開を期待したい。

【支援監理部人事】

新人採用 ① 支援管理部 1 名

② 令和6年9月より、インドネシアから女性職員対象者6名が採用予

定となった。

③ 10月末を予定しているグループホーム(ルビア)に勤務予定の職員

④ 法人事業 夜勤対象者の高齢化に伴う夜勤専門員の採用(契約職員)

職員退職者

支援管理部4名(中央棟 2 男性棟 2) 事務管理部 1

3 職員研修

コロナ禍であった為に、研修の在り方を工夫しオンライン、動画配信等を利用し、職員に必要な研修を、対面形式を極力避け実施した。

(研修内容)

管理者関係

- ① 福祉教育セミナー
- ② 施設長実学講
- ③ 経営者セミナー
- ④ 障害福祉事業経営セミナー
- ⑤ 福祉教育セミナー
- ⑥ コマニチュードの哲学と4つの柱
- ⑦ ジェントルティーチング公開ワークショップ
- ⑧ 社会福祉法人 経営者セミナー
- ⑨ その他

サビ菅

- ① 福祉教育セミナー
- ② 施設長実学講座
- ③ 令和5年度 県障害福祉事務所等支援員研修その他
- ④ ノーリフティング ケアフォーラム
- ⑤ 令和5年度 就労B型事務所等 工賃向上他研修
- ⑥ 全国生産活動就労部会 職員研修
- ⑦ その他

支援員

- ① 飯塚市圏域障害福祉従事者スタートアップ(基礎)
- ② コーチング研修
- ③ 令和5年度 発達障がい者支援研修会
- ④ 接遇研修
- ⑤ アンガーマネジメント

⑥ その他

看護師

- ① 令和5年度 感染症予防対策研修会
- ② その他コロナ禍における研修会の参加
- ③ その他

栄養管理部

- ① 令和5年度 第1回 筑穂地区栄養士・調理員等連絡会
法人経営・事業展開検討委員会 オンラインセミナー 今後の食事提供を考
えるセミナー
- ② その他

事務部研修

- ① 国・県の今後の変化に向けて、到来するである新たな改訂に向けての内容
を法人全体の学びとして、急速に変わっていく経済変動に伴う変化を、事務
職員全体の課題として学びを進めた。
- ② その他

茜会新事業展開に対する報告事項

茜会日中サービス支援型グループホーム新築工事契約の締結について

以下の様に報告するものとする。

【現場説明会】

令和5年12月11日 令和5年12月11日午前9時より10時の間にあかね園
女性棟研修室において、理事会で選出された指名業者5社に設計図・図面等(CD)
を配布する。

【入札】

令和6年1月12日(金)午前10時からあかね園女性棟研修室において、指名業
者5社の参加で入札を行う。

【落札業者及び落札金額】

飯塚市伊規須 563 番地 15(株)瑞健工務店 代表取締役 清水 幸浩氏が
196,570,000円(税込)で落札する。

【工事契約締結日】

令和6年1月16日

【工期】

着手 令和6年1月17日

完成 令和6年10月30日

引渡日 令和6年10月31日

【地鎮祭】

令和 6 年 1 月 22 日午前 10 時から阿恵老松神社 宮司様により、現地にて「地鎮祭」を行った。

参加者 理事長、高橋義直理事、金子理事、進野理事、加藤監事、太田評議員、小峠評議員はじめ地元の方や、工事関係者の参加をいただいた。

法人本部より、吉原、甲斐、サービス管理者（真崎・古道・滝本・井本）が参加した。

コロナが蔓延し、日本全体の環境が大幅に変化し、大変な時代となり 3 年半の月日が流れた。特に物価の上昇が止まらない状況となってきた。

法人が取り組んでいこうとする事業の中で、新事業の建築資材を含め積算予測を簡単につけることが困難な時代となり、業者を含め、設計士を始め関わる業者の方々も含め、慎重審議の手を休めることが出来ずに、ようやく新事業着工に至ることが出来たといえる。

令和 6 年 10 月末日には建物が完成する予定であるが、正に ICT 化を進め、専門性を活かした“多職種協働”による質の高い支援をめざしていく為に、次の取り組みを強化していきたい。

- 1 法人に勤務している職員、一人一人が原点に戻り“障がい福祉に対して、支援に対する基本姿勢の見直しを行う。
 - ① 人権の尊重 ② 包括的支援の充実・展開 ③サービスの質の向上 ④安心・安全の環境整備
- 2 地域社会に対する基本姿勢
 - ① 地域共生社会の推進 ② 信頼と協力を得るための積極的なPR
- 3 福祉人材に対する基本姿勢
 - ② 中長期的な人材戦略の構築 ② 人材の採用に向けた取り組み ③ 人材の定着に向けた取り組みの強化 ④ 人材の育成に向けた取り組みの強化